

# 緑 化 通 信

2022  
8月25日  
(年7回25日発行)  
第494号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階  
TEL.(03) 3586-7361 FAX.(03) 3586-7577  
URL: https://www.ueki.or.jp/  
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

## 令和4年度 第4回理事会を開催

令和4年6月29日(水)13時30分から協会会議室において理事13名、監事3名及び事務局出席のもと第4回理事会が開催された。

令和4年度前期監査報告について

岡野監事より前期監査について会計については適正に処理されているとの報告がなされた。

各委員会報告について

環境緑化樹木識別検定実施委員会 本年度2回実施した樹木識別のポイント講習会は収益的に無料の協会員を含めると収支均衡となつた。

※その他

植生調査委員会 植生調査委員会が関与した旧ハツタムの植生復元(苗木の供給)が5月中旬に終了した。

①協会保有の債券運用について 国債で対応すること

②にも野村證券及び市中銀行に預金を行うものとする。

緑育出前実行委員会

5月に「みどりふれあいフェスティバル」のこけ玉作りのワークショップに参加した。緑育の浸透と協会のPRが目的であったが、予想外の多くの参加者があり緑育活動が難しくなつた。緑育体験キットを学校で使用してもらえらるキットとなるよう今後も努める。

②協議会事務局負担金 植木協会の事務局の一部を全

国花き輸出拡大協議会が使用するにあたり覚書を結んだ。

③仙台緑化フェアについて

令和5年に仙台で開催される緑化フェアについて、協会としても携わって行きたいが、新樹種が関わるため新樹種部会と協議する

とする。

④今後の植木協会と輸出拡大協議会の関係について

1) Q. 総会の前には植木協会の内部組織となる案と聞いていたが、実際は外部団体となったため、総会にかけなければならないのか。

A. 当初は、植木協会の内部組織となる案であったが、反対意見が多く別々の団体となる案に変更になったため、総会では報告事項となった。

2) Q. 専務の協議会の実務時間については?

A. まずは、協会専務の立場で他団体の役員の受託について議論しなければならぬのではないかと。専務が兼業のため庭園樹部会のパンフレット作成やカレンダー販売では、協議会の協力を得ている。また、公式に出せるものを文書化するなりして進捗状況を会員向けに出して欲しいとの意見が出ている。

3) Q. 来年度以降も今年度と同様の補助金が出るのか?

A. おそらく輸出額について政府目標があることから、それなりの補助金があるものと考え。その他の意見 協会員が減っているため、協会が存続するための対策を考える必要がある。その一環として補助金獲得も考えられるが、その獲得のために各委員会や部会からも事業案を出して欲しい。

北海道・東北ブロック長  
福島県支部長  
安瀬 信一  
(有)舟引植産  
(福島県)



北海道東北ブロック長及び福島県支部長の安瀬です。

## 新ブロック長紹介

①好きなことやマイブーム紹介  
②ご自身の社園や圃場の紹介、ブロック長になられた抱負など

昨年今年と2回本協会総会のチャンスをコロナに奪われました。準備のため行われた泊での交流会を一つの事業としており、今年も7月下旬に予定しています。私事のマイブームですが5年前に福岡のカジムラファームさんに金縁辺を問合わせたのをきっかけに日本ミツバチの飼育を趣味としています。西洋ミツバチと違いコントロールが難しい所がまた魅力です。

関東・甲信越ブロック長

鶴沢 栄

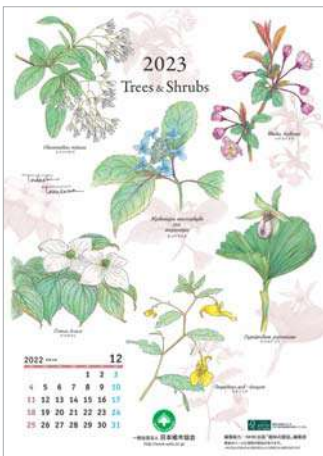
八街植木  
(千葉県)



関東甲信越ブロック長の鶴沢栄と申します。ブロック長として2期目に入りまして。令和2年の全国総会以降、全ての総会、研修が中止になり役員会しか開催できなくなり皆さんと出会う機会がなくなり、もどかしい思いです。早くコロナ禍が去って平和な日々が戻って欲しいと願う今日こ

越して欲しい。早くコロナ禍が去って平和な日々が戻って欲しいと願う今日こ

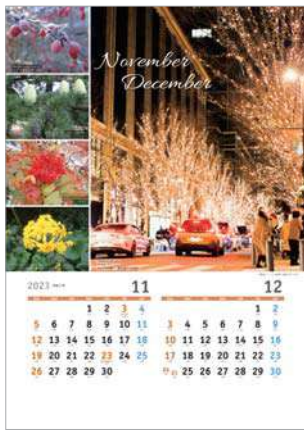
## 2023年版協会 オリジナル カレンダー



2023年版協会オリジナルカレンダーについて、NHK出版「趣味の園芸」編集部との協力を得て作成いたします。「FSC森林認証紙」と「大豆油墨」を使用。

会員価格 600円(税別)  
一般価格 700円(税別)

1部(最少ロット10部、送料別途)  
申込締切日 9月16日(金) 申し込み用紙を同封





が挙げられます。その中で三園は常緑中高木、コニファー、ソヨゴ、垣根材を中心に生産販売を行っております。小規模造園業者の顧客も多いのでそれに合わせて少しマイナーな樹木も少量ですが生産しております。



さて、東京都支部会員数は27名、遂に30人を割ってしまいました。自分が協会に所属して30年、今の仕事は協会に入会した事で成り立っている、と言っても過言ではありません。そんな植木協会に支部長として微力ではございますが、恩返し出来るように努めて参りたいと思っています。

新潟県支部長

畠山 富夫  
(株)畠山種苗園



①植木、果樹、野菜の播種育成、毎年のキュウリ、ナス、トマトなど最近では、シャインマスカットにはまっています。スポーツは年を取った事もありスコアは別としてゴルフをたまにやっています。

②コロナ禍がようやく収まりつつあるこの頃、植木の販売は右肩下がりのまま。しかし、植木はコロナ禍や景気に関係なく常に生長して行く。協会員の皆さん、植木の生産販売は勿論ですが、育ちすぎた植木の始末処理は大変な事と実感して

います。新潟の冬は雪で寒いと思っています方が多いと思いますが、実際の寒さは1ヶ月位です。最近温暖化の影響で柑橘類や常緑樹も育つようになり、逆に寒い地域の植木は病気や害虫の被害に見舞われるようになりました。

私も支部長を引き継ぎ17年が経過しました。当時一番苦しかった私に支部長の大役が回ってきました。世代交代が進み、今は私が一番高齢になりました。微力ながらこれから支部活動の発展に努めていきたいと思っています。

長野県支部長

上条祐一郎  
(株)丸八種苗園



わたしの最近のマイブームは、まだ9歳の息子に引張られながら一緒に楽しむことです。以前、子供が鉄道（特に貨物列車）にハマった時は、南松本駅の貨物ターミナルへ機関車を見に行ったり、鉱物にハマった時は諏訪のはずれの和峠へ黒曜石を拾いに行ったりしました。

夏真っ盛りの現在は、定番のクワガタやカブトムシ採りに加えて、水生昆虫にハマっています。スコップ等を置く倉庫の一角に虫かごや水槽が15個も陣取っていて、私も一緒に餌やり、水替えを手伝っています。

週末ごには、近くの田んぼや水路に出かけ、サワガニ、ドジョウ、ヤゴ、タガメ、ヒメゲンゴロウ、コオイムシなど、さまざまな水の生き物を採集してきては飼育するのです。名前や性質だけでなく、どんな餌がよいかなども、図鑑や図書館の本、ネット情報などで詳しく調べている息子には感心します。

でも、憧れのゲンゴロウはなかなか見つかりません。いまや長野県でも絶滅危惧種のようなです。減少の原因は、農薬だけでなく、水田の基盤整備、餌となる微小な水生昆虫の減少など様々で、とくに幼虫期間が数年間と長いゲンゴロウやオニヤンマなどは影響が大きいようです。水生昆虫を通して、改めて環境について学ぶ毎日です。

長野県支部の会員数は5名と少数ですが、コロナ禍になってから目立った支部活動ができていません。たった5社ですが各社園ごとに得意分野が異なり、大卸、売店、工事、苗木生産とそれぞれ特色があります。当社は、ポット苗は落葉中高木類を中心として、庭づくりの彩りを添えるカラーリーフなどの低木類も多種類生産しております。

露地ものは、株立ちもののほか、ウラボシモミ、イチイなどの郷土種も継続して生産しています。規模は小さいながらも個性的な社園を目指していますので、皆様お近くまでお越しの際は是非お立ち寄りください。

植生調査委員会

植生管理士スキルアップセミナー  
「武尊の自然と人間との関わり」

はじめに、今回3年振りにスキルアップセミナーを開催することができ、参加者および関係者の皆様のご協力に深く感謝申し上げます。世間同様に植生調査委員会も新型コロナウイルス感染症拡大によって活動自粛や縮小が続いていましたが、ようやくフィールドに集まって植物を観察する研修会を開催することが出来ました。

群馬県伊勢崎市で40・2度を観測した6月25日、同じ群馬県川場村に講師を含めて30名が集まりました。やトレッキングを楽しむ多くの人で賑わっていました。

は、朝9時に集まらなれた。観察のターゲットにしたブナ林は、過去に放牧がされており、草地からレンゲツツジ、シラカンバ、ダケカンバと植生が回復している様子や遷移の状況を観察しながらブナ林に入りました。歴史や環境を踏まえ、他の地域のブナ林との違いや、今回のブナ林の特徴を押さえるが2グループに分かれて植生調査を行いました。スキルアップと名打った今回のセミナーですが、植生調査は初めてという参加者も多く、非常に高い関心を持ってセミナーが進んでいきました。

午後、川場村に戻り世田谷区民健康村の敷地内に設置されていたいたいた試験区で、植生復元のための植栽

を行しながら、植栽の目的、樹種の選択、植栽地の状況、立地環境、施工方法や調査した植生から復元計画に至る考えなどの講義を受けました。また法面での植栽の注意点や、ススキなど目的外の植物の管理について、獣害対策についてなど、様々な状況を考慮し今回の試験区の意図と植生を学んでいくことの重要性を参加者に理解してもらいました。この新しい植栽地は、植生アドバイザー育成講座Cコースでのモニタリングに活用し、植物の挙動の観察、ターゲットとしている植生への導き方など学んでいく予定です。

タイトなスケジュールとなり、もっと時間が欲しいとの言葉を参加者からいただきました。申し訳ありません。次回も参加していただければと思います。また、植生アドバイザー育成講座にも来ていただきたいと思っています。植生アドバイザーの講義を取り入れつつ参加しやすい環境づくりに努めていきます。ぜひ、よろしくお願致します。

は、朝9時に集まらなれた。観察のターゲットにしたブナ林は、過去に放牧がされており、草地からレンゲツツジ、シラカンバ、ダケカンバと植生が回復している様子や遷移の状況を観察しながらブナ林に入りました。歴史や環境を踏まえ、他の地域のブナ林との違いや、今回のブナ林の特徴を押さえるが2グループに分かれて植生調査を行いました。スキルアップと名打った今回のセミナーですが、植生調査は初めてという参加者も多く、非常に高い関心を持ってセミナーが進んでいきました。

午後、川場村に戻り世田谷区民健康村の敷地内に設置されていたいたいた試験区で、植生復元のための植栽



武尊牧場キャンプ場でハイチーズ



ブナ林の特徴を解説される中村先生



ヒロイド原新植栽地での植栽作業

シリーズ

ちょっと一息、ほっこり出来るような記事を募集しています。是非お送り下さい。

TEA TIME  
連載「私の趣味」⑤

丹下 幸雄

(株)瀬戸内園芸センター (愛媛県)

今回は名画の模写を紹介させていただきます。本物だったら数十億円分!?の模写です!名画の模写をすることで、段々と上達したと自負しております。本物よりよく描けています(笑)。

①「真珠の耳飾りの少女」 9号

オランダ絵画の黄金時代の画家フェルメールが1665年頃に描いたと推定されている油彩画。この絵は17世紀にオランダで描かれたトロニー画で(オランダの黄金時代の絵画やフランドル地方のバロック絵画によく見られる作品)、肖像画ではなく「顔(頭)」を描いたものである。エキゾチックなドレス、東洋のターバン、ありえない大きさの真珠のイヤリングを身に着けたヨーロッパの少女を描いている。オランダで最も美しい絵画といわれている。本物はマウリッツハイス美術館所蔵。



「真珠の耳飾りの少女」の模写

②「ガニユメデスの誘拐」 50号

ギリシア神話を題材とするこの作品は、レンブラントがアムステルダムに移住した1635年頃に描かれた。この作品では絶世の美少年との呼び声が高いガニユメデスが、神々の給仕にさせられるために驚き誘拐されているシーンが描かれている。神話を題材にしながらも、恐怖に泣きわめくガニユメデスの表情は可哀想だが、思わず放尿してしまっている様子など、滑稽な部分も見られるのが興味深い。本物はドレスデン国立美術館に所蔵。



「ガニユメデスの誘拐」の模写

③「落穂拾い」 50号

広々とした畑で3人の農婦が腰をかがめて農作業に勤しんでいる「落穂拾い」は、フランスの写実主義の画家、ミレーによって1857年に描かれた農民画の傑作です。美術の教科書にも良く登場し、多くの人が一度は目にしたことがあるのではないのでしょうか。本物はオルセー美術館所蔵。



「落穂拾い」の模写



ルポ

シリーズ 社園さん紹介

No.13

# (有)大坂林業

## 北海道(中川郡)

身近な「あれ？」と思う疑問を改善してビジネスに繋げていくアイディアマンの社長 松村幹了さん。業界の人手不足にも不安に思うと業界初のコンテナロボットを導入し、愛用の薪ストーブの薪の購入に疑問に思うと自身で製造販売を手掛け、「カイゼン=KAIZEN」する！従業員さんにも日報を浸透させて、次年度の計画や改善に繋げています。

香川県出身の松村さんですが、北海道の地元愛が大きく、スキー場のレストランの閉鎖をみかねて経営までしてしまう。今回は若者が働きたいと集まってくる魅力的な“大坂林業さん”を紹介します。



社長の松村幹了さん



経済産業大臣から授与された  
「はばたく中小企業小規模事業者300社」の  
生産性向上部門

### 大坂林業さんとのご縁を教えてください。

松村さん：「弊社は創業73年目で、当初は製材工業と苗木生産の兼業でしたが、徐々に苗畑にシフトしてきました。私自身は帯広畜産大学の大学院を卒業して、アメリカのオレゴン州で農業研修生として1年留学し、その時に調達の苗畑に行ったことが、植物との最初の出会いです。当時の友達から「羽振りのいい日本人団体が視察に来て、苗畑の写真を撮って欲しいとカメラごと渡された！」と聞いたのですが、どうもそれは植木協会一行のようでした(笑)。それが植木協会との縁です。日本に戻り友人に勧められた大坂林業のアルバイトをしたのがきっかけです。自然は好きでしたが、友人には「植物？」と驚かれました(笑)。

### 大坂林業さんはいつからコンテナ苗を？

松村さん：「本格的には10年位前からです。山の木を伐ったらそこに苗木を植え直す必要はないですね。それなのに苗木不足で「緑化木ばかり作って！」と喝を入れられたのが始まりです。「森の循環バランス」(図)は大切なことです。実際には、木を伐るマーケットの方が大きく、苗を作って植えるマーケットは少ないことが問題です。最近になってその重要性が認識されてきて、北海道は現在、8、9割ほどの再造林率ですが、本州は3割程度なので、苗木を植える作業がだいぶ少ないはず。「伐ったら植える」ことの大切さを従業員に説明すると、少し辛い仕事でも仕事の意義を見出して頑張ってくれています」。



(図) 森の循環バランス

### コンテナロボットを導入したのは業界初ですね？

松村さん：「はい。人手不足の解決策としてロボットを導入したら、逆に昨年若手従業員が7人増えて現在は17人です。最近では毎年地元の農業高校からや、IターンやUターンの若者の就職が定着して平均年齢も30歳以下です。意外だったのは、70歳前後のベテランの方が「ロボットはいい！」と言うのです。人同士の作業だと各々のスピード差がありますが、相手がロボットだと作業に予測ができてやり易いと言うのです。…「確かに」と納得しました。

「ロボットを導入して採算は合うの？」とよく聞かれますが、助成金を利用しましたし、それ以上に、社員の意識改革など、数字に出ないプラスが十分にありました。生産を計る意味でも7万本養成できるハウスが16棟あるので、1日にコンテナ苗を7万本作るようロボットを設定しているので、16日で112万本の苗木が作れます。うちの生産量としては十分です」。

### 寒さに対しての冬の仕事は？

松村さん：「冬は、山チームの仕事は激減します。私は薪ストーブを25年間愛用していて、いい薪が購入しにくかったことと、山チームの雇用確保のために薪の製造販売を始めました。今はキャンプブームも相まって利益も出て安心して雇用も出ています。

また、会社の目の前のスキー場のレストランが閉鎖の危機になったので、そこは若者の集いの場所だし、

Iターン、Uターンが定着出来るような街づくりに社会貢献しようとレストラン経営を引き受けました。だから夏はチェーンソーを持っている従業員が冬はラーメン作っています(笑)。

### 大坂林業さんならではの働き方の工夫は？

松村さん：「とにかく従業員さんには日報を付ける時、常に“なぜ？”と考えて細かく記入するよう伝えています。年末にカレンダーを1人1つずつ渡して、前年の日報を見ながら次年の予定を書き込んで1年分のシミュレーションを作成します。年末の会議で発表してもらいますが、前年の日報の記録が未完成だとカレンダーに記入出来なく悔しい思いをします。だから、日報は『提出しなさい』ではなく『自分で大切にしなさい』ということです。

会社が掲げるのは『今年は何万本作りますよ』と、『1年間の年休、有休は何日間ですよ』くらい。まずは自分で、その後みんなで補完しながら会社全体の作業計画を考えて、さらに休日も決めてもらいます。有休もできる限り消化してもらい、出来る限り自己管理を進めています。他には職員には肩書きは付けずにフラットに意見が言えるようにしています」。



コンテナ苗ハウス



業界初のコンテナロボット

### 普段の休日や、やりたいことは？

松村さん：「重い課題があってもニコニコしながら解決したいので、解決のための“種”を探しに、“社会人の学び直し”に参加したり、依頼されたら断らずに講演をしたりと活動を広げています。あとは、子どもが大学で家を出たので、そろそろ夫婦で出歩こうかな？とか、菜園も充実させようかな？と思っています。…きっと“食”に絡めたビジネスかもしれませんね！。

…若者を引き付けるエネルギーのある大坂林業さんに、今後も飛躍していくことを期待致します。ありがとうございました。



従業員の方々 左から山本さん、長屋さん、小野田さん

### 入社の決め手は？

山本さん：「私はIターンです。大阪出身で妻が札幌出身です。大阪では畑違いの仕事をしていて、緑に関わる仕事がしたいとネットで探していたら、林業とは木を伐るイメージでしたが、苗を育てるナーセリーという点が“ピン！”ときた理由と、もう1つは業界初のコンテナ苗のロボット化など、新技術を導入して事業に取り組む姿勢が格好よく感じました。そういう環境で働きたいと思いました。…若い方にとって魅力ある会社であることが、いい人材を集めることに繋がるのですね。

長屋さん：「私は以前に職業体験でいいなと思いました」。



販売用の薪



本社の前のスキー場と、経営を始めたスキー場のレストラン「ナウマン食堂」

小野田さん：「私もナーセリーという仕事に共感したこと、学校の先生がすごく推してくれました(笑)」。

### お仕事の担当は？

山本さん：「私は本社と200km離れている北広島営業所で、緑化木の生産管理をしています。10名程のパートさんのスケジュール管理と、冬は薪の製造販売をしています」。

長屋さん：「私たちは本社で苗を育てています」。

### 休日はなにを？

山本さん：「休日は娘が2歳なのでほとんど公園です。平日の冬は本社の前がスキー場なので、本社出勤の前に滑ったり、頂上でコーヒーを飲んだりと色々楽しんでいます」。

長屋さん：「私はダンスと釣りです。魚は触れないのですが、釣りは楽しいです(笑)」。

小野田さん：「私は映画とかショッピングです」。

### これからやってみたいことは？

山本さん：「もっと木の知識を身に付けたいです。あと、子どもが植物や森林を通して自然が好きになるような体験を届ける事をしたいと、いつも頭の片隅に置いています」。

…未来の子どもたちに一番大切なことですね。頑張ってください。





地方かわら版

九州ブロック研修会開催

九州ブロック長 酒見博文  
(有)酒見緑化園・大分県

九州ブロック研修会を令和四年五月十九日と二十日に熊本で開催しました。支部会員の展示庭園や多くの樹種と草木も植栽され、5月19日は【くもと花とみどりの博覧会】水辺エリア及び街中エリアを視察し、水辺エリアを後にし、街中エリア（水前寺江津湖公園一帯）では全国の緑化フェア会場を担当されている沖さんに会場案内をお願いし造園業者が展示している庭園、また高校生が作庭した庭を見

学しました。広々とした会場には日本植木協会熊本県支部会員の展示庭園や多くの樹種と草木も植栽され、5月19日は【くもと花とみどりの博覧会】水辺エリア及び街中エリアを視察し、水辺エリアを後にし、街中エリア（水前寺江津湖公園一帯）では全国の緑化フェア会場を担当されている沖さんに会場案内をお願いし造園業者が展示している庭園、また高校生が作庭した庭を見

熊本で意見交換を行いました。三年ぶりの意見交換会では樹木の生産状況や資材や燃料の高騰など様々な事業の話題また、家族の近況や後継者の話題など話が尽きることなく終了しました。総会や研修会で会員と顔を合わせて話をするこの大切さを感じることができた意見交換会になりました。今後人数規模縮小はできないため、空間の広さや換気の良さなど会場を精査し、感染症予防を徹底したうえで意見交換会を開催していこうと思います。

翌20日は熊本県支部(有)豊岡晃樹園圃場で非接触型作業のドローンによる病虫害防除研修を行いました。ドローンの性能や薬剤の希釈倍率、薬剤散布の方法など実機による作業を視察しました。低木から中高木までの病虫害防除作業の速さまた、省力化による負担の軽減、長期的に見たコスト削減が容易にできる機械化と

37名出席で2日間行った研修でしたがとても有意義にできた研修会になりました。本年の研修会も中止せざるを得ないという不安もありましたが、多くの参加希望者の協力により開催できたことを心より感謝いたします。今後も九州で生産した植物を数多く流通させるため、より多い会員参加者の研修会・勉強会を開催します。

九州ブロック会員一同来年の全国総会会場で皆様をお待ちしております。



くもと花とみどりの博覧会



(有)豊岡晃樹園圃場にて



ドローンにて病虫害防除研修



さくよう標本

「福浜キャンパス」と糸島

2. 実践的な教育のための5つの方針のもとで学ぶ

本学では実習を中心に、2年間の限られた短い時間で造園ランドスケープを効率的に解りやすく学んでもらう必要があります。そこで現在本学科では「実地と現場で本物に触れる・作ってみる」を重視し現場で施工や管理の学びから計画・設計を考える仕組み作りを構築し、そのために必要な5つの方針①実習を中心とした学び②みどりの(植物・自然環境)に関する専門知識③ICTを基礎④現場からのデザイン思考⑤施工写真を活用したポートフォリオデザインによるまとめを定め、授業間の連携も行

に毎年9月に開催する緑の研修会では、福岡のみならず九州、全国の産官学から造園・園芸・自然環境に関する専門家や学生が参加し、一つのテーマについて考えるワークショップを開催しています。地元行政や業界諸団体の協力もあり、学生たちが社会人と日常的な交流の中で「職能・仕事」「自らの進路」について考える機会を得ることができています。

様々な専門家・社会人と

市二丈深江にある田園型の「二丈キャンパス」の2つのキャンパスで学んでおり、2つのキャンパスは専用のバスで結ばれています。福浜キャンパスでは座学を中心とした講義、設計関連科目、コンピュータ関連科目が行われます。福浜キャンパスは福岡市の中心天神地区にも近く、博多駅まで25分、福岡空港まで30分という位置にあり、徒歩エリアにはソフトバンクホークスの本拠地福岡ドームも、チームもあり、大変生活にも便利な地域です。二丈キャンパスでは実地での実習・演習を中心とした授業や樹

木・植物に関わる授業を行っており、理論のみならず実物と実践を基軸とした学びを体験できる場所です。この2つのキャンパスで、北海道から沖縄まで全国からやってきた学生達がより実践的に学んでいきます。

「実地での豊富な実習や演習」を下地にした学びを多く取り入れ、2年生ではさらにそれをまちなかの実地・フィールドに出て展開実践し、大きな成果につなげていきます。都市公園内の樹木・街路樹や昆虫などの生物調査をはじめ、実際に空間の設計から施工まで、キャンパス内にとどまることなく、まちなか、公園、さらには全国都市緑化フェアアをはじめとする様々な場所へ学生たちは飛び出して活動を行っています。また数多くのガーデニングのコンクールや設計競技にも積極的に参加しています。特に日本造園建設業協会主催の全国造園デザインコンクールなどコンクールでは毎年500作品ほどが展示される中で実習作品部門において毎年入選し、国土交通大臣賞をはじめ特別賞も数多く受賞するなど、調査、設計から施工まで、造園・ランドスケープの実践的な学びの質を担保して



全国都市緑化くもとフェア出展庭園

学校紹介

未来の業界を担う若者たち

西日本短期大学 緑地環境学科

学科長・教授 西川 真水

実践的な造園・ランドスケープ技術者の養成を

1. 造園・ランドスケープ

西日本短期大学緑地環境学科は1967年に造園科として現在の福岡県八女市に設置されました。1984年に福岡市中央区福浜の現キャンパスに移転、2006年には学科名を緑地環境学科に名称変更し、学科設置から半世紀が過ぎ卒業生も概ね5000人に達しています。現在は「造園芸術コース」「ガーデンデザインコース」「自然環境デザインコース」の3つのコースから構成されています。緑地環境学科の学生たちは本学がある都市型の「福浜キャンパス」と糸島



二丈キャンパス



ふくおか、みどりの研修会

4. 様々な産官学連携による学びの拡張

専門的な学びの充実のため多くの卒業生や業界団体、行政など産官学連携での授業や取組が充実していることも特徴です。国営公園・福岡県・福岡市と連携し、公園やまちなかの花壇修景や生き物の調査、全国都市緑化フェアでの出展庭園の制作などの取組は専門的な学びを実践へと展開する教育プログラムです。日常的に多くの業界団体と連携した勉強会も開催し、ランドスケープコンサルタンツ協会九州支部と月に一度の交流勉強会、さら



賛助会員紹介

シリーズ2

早瀬工業(株)

「緑化資材を通して  
人々の生活を豊かにする」

〒708-0841  
岡山県津山市川崎 540  
TEL 0868-26-1166  
FAX 0868-26-3991  
担当者 菅原辰弘

早瀬工業株式会社は、昭和28年2月15日創業で今年創立70年を迎えた会社です。創業時より「紙の撚り紐」を製造販売し、角底紙袋の取っ手紐やお土産物の結束・化粧紐として又裁縫箱やゴミ箱の装飾用紐として幅広い分野で使用されてきました。その後、セロハン印刷加工・漁網糸の撚糸

現在、緑化事業関連の仕事をして頂いているのも紙紐業からの発展形で、35年程前より紐が将来減少して来るとの事から、「わらが天然のわら紐のように長さが不均一だったり、ケバが有ったりゴミが出たりカビが生えたりとデ

現在では、緑化木の生産・流通・出荷・植栽・管理など全ての過程に関わる資材を販売しております。その「わら紐に代わる紐」としての耐水性紙紐「ケミカロープ(G)」です

今後緑化関連の総合商社・よろず屋として「早瀬工業」に言えは何でも解決する」を目指し、皆様に頼りにされる企業として成長してまいりますので、引き続き、愛顧のほど宜しくお願い致します。

岩手県宮古市の重茂(おもえ)半島には、本州最東端に位置する「鮎(とど)ヶ崎」があります。映画「喜びも悲しみも幾歳月」(木下恵介監督)の舞台になった鮎ヶ崎灯台が鎮座する岬です。「♪おいら岬の灯台守は〜」(作詞・作曲、木下忠司)と歌えば、思い出す方もいるかも知れません。その灯台近くには、アカマツコナラ林が成立していました。

そんな海岸近くの自然林の中で出会ったのが、「フシグロセンノウ *Silene miqueliana*」でした。緑色の林縁の壁に鮮やかなオレンジ色の花卉。自然界には珍しく、まるで園芸品種のような色。しばらくその場に立ち尽くしていました。また、とても印象的な色合いなのに、植物名が「フシグロセンノウ」？ 確かに、茎の節が少し黒ずんでいる特徴を持っていますが、命名のポイントがそこ？

「フシグロセンノウ」は、ナデシコ科マンテマ属(旧センノウ属)、日本の山野に自生する日本固有種ですが、名前の由来になった「センノウ *S. senno*」は切れ込みのある鮮赤色の花卉で中国原産。鎌倉時代の終わりに渡来し、かつて京都の嵯峨にあった仙翁寺(せんのおうじ)で栽培されていたことから、仙翁花(せんのおうげ)と呼ばれ人気となり、室町時代には七夕の花として一世を風靡、七夕は「仙節(仙翁花の節)」とも呼ばれるようになったのだそうです。現在では「センノウ」が、それ程もてはやされる事はありませんし、同じ仲間ですが、花型、色などが特徴的に異なり、「センノウ」の名前をいただくなくとも、独自の魅力を充てた植物名を付けてあげたいのですが・・・。節黒(フシグロ)では悲しいです。「ノドグロ」みたい・・・。「ノドグロ」は美味しいですね。

いろいろと書きましたが、植物に対する興味は尽きませんね。だから、楽しいです。

150cm・200cmの扱いもありますし、特注サイズもお受け致しております。「緑のコーディネーター」として

日本の豊かな自然や四季を次世代の子供たちに残していけるよう、業界No.1企業を目指し全国の緑化事業関係者に麻布製品をはじめ各種資材・機材や有益な情報を提供し続けています。

単に生産・造園・流通資材の販売に留まらず、全国の緑化木の樹種・規格・数量等の情報提供やご紹介等色々なご相談やご問合せに応じています。

多くの紐ではなく工業製品ですので、均一な太さと長さが保障されており全く衛生的な紙紐です。規格もわら紐と同じように1分から3分まで揃っておりますので是非一度お試しになってください。

また、弊社の根巻用麻布(三角・四角)は、サイズ毎に色糸が挿入されており、現場での識別に大変重宝されております。カット面も綺麗でホツレおりません。大判サイズでは、12cm・130cm・140cm・

現在、緑化事業関連の仕事をして頂いているのも紙紐業からの発展形で、35年程前より紐が将来減少して来るとの事から、「わらが天然のわら紐のように長さが不均一だったり、ケバが有ったりゴミが出たりカビが生えたりとデ

今後緑化関連の総合商社・よろず屋として「早瀬工業」に言えは何でも解決する」を目指し、皆様に頼りにされる企業として成長してまいりますので、引き続き、愛顧のほど宜しくお願い致します。

岩手県宮古市の重茂(おもえ)半島には、本州最東端に位置する「鮎(とど)ヶ崎」があります。映画「喜びも悲しみも幾歳月」(木下恵介監督)の舞台になった鮎ヶ崎灯台が鎮座する岬です。「♪おいら岬の灯台守は〜」(作詞・作曲、木下忠司)と歌えば、思い出す方もいるかも知れません。その灯台近くには、アカマツコナラ林が成立していました。

そんな海岸近くの自然林の中で出会ったのが、「フシグロセンノウ *Silene miqueliana*」でした。緑色の林縁の壁に鮮やかなオレンジ色の花卉。自然界には珍しく、まるで園芸品種のような色。しばらくその場に立ち尽くしていました。また、とても印象的な色合いなのに、植物名が「フシグロセンノウ」？ 確かに、茎の節が少し黒ずんでいる特徴を持っていますが、命名のポイントがそこ？

「フシグロセンノウ」は、ナデシコ科マンテマ属(旧センノウ属)、日本の山野に自生する日本固有種ですが、名前の由来になった「センノウ *S. senno*」は切れ込みのある鮮赤色の花卉で中国原産。鎌倉時代の終わりに渡来し、かつて京都の嵯峨にあった仙翁寺(せんのおうじ)で栽培されていたことから、仙翁花(せんのおうげ)と呼ばれ人気となり、室町時代には七夕の花として一世を風靡、七夕は「仙節(仙翁花の節)」とも呼ばれるようになったのだそうです。現在では「センノウ」が、それ程もてはやされる事はありませんし、同じ仲間ですが、花型、色などが特徴的に異なり、「センノウ」の名前をいただくなくとも、独自の魅力を充てた植物名を付けてあげたいのですが・・・。節黒(フシグロ)では悲しいです。「ノドグロ」みたい・・・。「ノドグロ」は美味しいですね。

素描挿話。

～すてきな花達に魅せられて

⑫ フシグロセンノウ

小岩井農牧(株) (岩手県)  
たさ ざわ だけ  
足 澤 匡



*Lychnis miqueliana*

日本列島植木植物園

ナショナルプランツ コレクション\*

萩の仲間

岡山崎隆雄 (株)ワイズプランツ ☎048-875-2155

ハギは万葉集に数多く歌われ、山上憶良が詠んだ歌が始まりとされる「秋の七種(草)」(萩、尾花、朝顔、葛、撫子、藤袴、女郎花)の一つにあるように、古来より、慣れ親しまれてきました。

「ヤマハギ」や「ミヤギノハギ」、日本固有種の「ツクシハギ」などの花は、中秋節の頃から見ごろになります。

また、ハナハギ属の「ウンナンハギ」は四季咲き性で、春から樹冠いっぱい花を咲かせ、長く楽しむことが出来ます。

源氏物語のような、優雅な「和モダンの壺庭」には、ハギは欠かすことができない花木。あまり大きくならず、新しく伸ばす枝に花をつけ、根粒菌を持つのでやせ地でもよく育ち、扱いやすいのが特長です。



*Lespedeza 'Edoshibori'*  
エドシボリ



*Lespedeza 'Samidarehagi'*  
サミダレハギ



*Campyloptropis polyantha*  
ウンナンハギ



*Lespedeza bicolor* ヤマハギ



*Lespedeza thunbergii subsp. thunbergii* ミヤギノハギ

\*ナショナルプランツ コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。



青年部会だより

青年部会 中日本ブロック長  
朝岡直紀  
(丁直植物園・愛知県)

初めまして、愛知県西尾市で苗木生産をしている丁直植物園の朝岡と申します。

西尾市は愛知県の三河地方と呼ばれる地域にあり、自動車関連企業がとても多い場所です。

愛知県で苗木と聞くと「稲沢市」が思い浮かぶと思いますが、稲沢市以外でも苗木の生産をしている地域がほかに在り、その一役買っている場所なので

ただ西尾市は苗木よりも、花卉類の生産農家が多く、苗木協会に属しているメンバーは数名程度で中々西尾市が稲沢に次ぐ苗木を生産している地域とは認知されていません。ですが、三河地方には非常に多くの造園業の方がおり、地域に必要な苗木として頑張っています。

が造園屋さんから苗木を買うのは何か立場が変わって可笑しい感じが聞こえますが、そこは同じ苗木を扱う業種としてお互いに助け合っていければいいのかなと、勝手に思っています。

また、そのような畑には何年も植えたまま大きくなく成長した一点物の苗木も中には有り、お宝な樹を探さず感覚で畑を回ることがあります。ボサボサの藪のようになった畑でも注意深く探せばモミジなどの落葉樹が山取りの樹のように下枝を落とした状態で残っていたり、常緑樹なら畑で管理して作る樹形ではなくスラッと伸びて、人の手で作れないまさに一点物と言える樹に出会えることがあります。

あるので、藪畑であっても宝箱と思い、日々あちこちの藪畑に目を光らせています。ただ、一点物の宝物に出会える機会はとても少ないので、当たり前ですが、苗木屋らしく自分で苗を植えて生産し続けることが大切だと考えます。

中日本ブロック長となり、全国の幹事の方たちと知り合える機会をいただけました。同じ苗木協会員であっても、地方の苗木屋が全国の苗木屋さんと親しくなることはとても難しいことだと思います。この役に就いたことで出会える機会や、新しい発見をどんどん増やし自分のビジネスの糧にしていきたいと思っています。



園場①



園場②

特集

苗木類に被害する外来病害虫・東京周辺の事例⑨

クビアカツヤカミキリ

樹木医 小林 明



写真-1 クビアカツヤカミキリの雌

2年前にこの欄で紹介した続編です。当時、関東地方では埼玉県、東京都、群馬県、茨城県、栃木県でサクラ類やウメ、モモなどバラ科樹木への被害が確認されていました。現在、発生している都県は状況は変わりませんが、発生地域が徐々に広がる傾向にあります。東京都の例では、多摩地域の2市から昨年5月時点で、成虫のみの確認を含め7市3区に広がっています。

【特徴】

前回のとおりですが、元々の分布は中国や朝鮮半島などです。体長2〜5cmほどの甲虫で、首に見える部分の赤みを帯びるほかはつやのある黒色の特徴です（写真1）。6〜7月に成虫になり、雌は交尾と産卵を繰り返して、産卵数は数百個になることもあるそうです。成虫には独特の匂いがあり、持つと手にその匂いがしばらくの間残ります。

白濁した樹液（写真3）が出ています。フラスは径5mmほどのミンチ状で一見して分かるほどの量です。樹液はほとんどが白濁し、しばしば数cm以上垂れます。コスカシバの樹液と似ることがありますが、コスカシバはほとんどの場合、細かなオガクズ状の破片が混じります。

産卵後、幼虫になると幹の内部に坑道を作ります。幹径20cm内外の成木では坑道、幹の辺材部を一周すると水と養分の供給に支障をきたし、枯れることがあります。幹径が50cm程度以上の大径木は、今のところほとんどが枯れずに残っています。枯れないことが根絶を難しくしているとも思われます。

根絶を目指すには、徹底した成虫の飛散防止、あるいは産卵された樹木を太根も含めて伐採し、焼却か細かくチップに処分することです。しかし、大木のソメイヨシノの場合、住民感情への配慮や費用の問題があり、容易に伐採できないのが実情です。また、ウメやモモなどの果樹も営農上、伐採は最後の手段とされます。そこで、農薬と成虫の飛散防止のネットの設置（写真4）などの防除策を実施することになります。

適用可能な農薬は、樹体に散布する薬剤として、スミチオン乳剤（各社製造）、カルホス乳剤など、フラス排出孔に注入する薬剤として園芸用キンチョールやバイオセーフ、ロビンフッドなど、幹に孔をあけて注入する薬剤として、アトラック液剤やウッドスターなど、幹に巻き付ける生物農薬としてバイオリサ・カミキリがあります。ここ数年で適用可能な農薬はすいぶん増えました。

国内の生息範囲は、じわじわと広がっています。発生や防除の情報は、インターネットでも入手できます。最新の状況に留意して被害とその拡がりを抑え込みたいものです。



写真-2 根元に落ちたフラス



写真-3 穿孔部から流れ出た白濁した樹液



写真-4 防除用のネット

コンテナ農場（100万本生産）



コンテナ農場



オリーブ



カンツバキ赤花と白花

(株)瀬戸内園芸センター



愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187  
http://www.setoen.com/ E-mail: setouchi@setoen.com

- 主な生産物
- クロマツ コニファー類 ヤシ類
  - カンシノキ タブノキ
  - モチノキ ウバメガシ オリーブ
  - カクレミノ クロガネモチ
  - サンゴジュ シマトネリコ
  - マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
  - レッドロビン オウゴンマサキ
  - カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
  - シャリンバイ ツツジ類 トベラ
  - ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
  - サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど



連載「自然に想う」

## 第5回 緑の国勢調査(自然環境保全基礎調査)について

(一財)自然公園財団 専務理事 鳥居 敏男



### ◆プロフィール

1961(昭和36)年生 1984年環境庁(当時)入庁。上信越高原、瀬戸内海、釧路湿原、知床などの国立公園の現場管理に携わる。本省国立公園課長、自然環境計画課長などを経て、自然環境局長を最後に2021年退職。

8月号のテーマは「緑の国勢調査」です。正式名称を「自然環境保全基礎調査」といいます。1972(昭和47)年に制定された「自然環境保全法」第4条に基づいて実施されているもので、翌73年から本格的な調査が始まりました。これまで、動物(哺乳類、鳥類、両生・爬虫類、昆虫類など)、植物(植生、特定植物群落、巨樹・巨木林など)のほか、河川、湖沼、湿地、海岸、藻場、干潟、サンゴ礁といった「場」に着目して自然の状況(生物相だけでなく、自然・半自然・人工といった改変度合)について調査が行われてきました。今回はその中から植生調査と巨樹・巨木林調査についてご紹介したいと思います。

### 植生調査

緑の国勢調査の中でも代表的なものが植生調査です。日本は南北に長く起伏に富むことから多種多様な植生が見られます。植物社会学に基づいて群落単位を地形図上に表したものが植生図(図参照)です。環境省生物多様性センターでは1/25,000の縮尺で全国の植生図の作成に1999(平成11)年から着手しています。日本全国をカバーする図幅総数は4,740枚に及びますが、現在その約95%が完成し、同センターのホームページからダウンロードできるようになっています。

植生図は環境アセスメントの際の基礎情報として、また国や地方自治体の自然環境保全施策立案の重要な基礎情報として活用されています。1/50,000縮尺の全国植生図が1999年に完成した際には、人為による影響が少ない自然植生が全国で2割を切っていたことが判明しました。今後1/25,000縮尺の全国植生図の完備により、日本の植生のより詳細な状況の把握が期待されます。

### 巨樹・巨木林調査

巨樹・巨木林調査が初めて実施されたのは、1988(昭和63)年のことです。巨樹・巨木林は何百年、ものによっては何千年もの年月を生き抜いてきた畏敬の対象となる存在です。巨樹・巨木林は様々な生きものに住処を提供するだけでなく、信仰の対象として、また地域のシンボルとして私たちの心の拠り所となっています。このような巨樹・巨木林の現状を把握し、その保存に役立てる目的で調

査が行われました。

この調査では、巨樹・巨木の定義を「地上から約130cmの位置での幹周(囲)が300cm以上の樹木(以下略)」としています。また巨木林の定義は、「巨樹・巨木及びこれに準ずる樹木が複数生育しており、面的な広がりをもつもの(社叢等小規模なものも含む)、または並木を形成しているものをいう」とされています。

調査は、地方自治体や全国巨樹・巨木林の会などの有志の協力を得て、1988-89年、1999-2000年に実施され、2005(平成17)年以降は一般の方々からの報告を生物多様性センターが随時受け付け「巨樹・巨木林データベース」として公表されています。これまでに6万件を超える情報が寄せられました。

集まったデータから分かった全国最大級の巨木(上位10傑)は表に示したとおりです。全国一の巨木は、鹿児島県始良市蒲生町にある八幡神社のクスノキです(写真)。幹周が24mを超え、国の特別天然記念物に指定されています。樹種別でみると、巨木総数に占める割合が高かった樹種は、スギ、ケヤキ、クスノキ、イチョウ、スダジイの順となっています。また所有者別をみると、群を抜いて多かったのは社寺で全体の6割ほどを占めています。社寺が高い割合になったのは、身近なところに存在し、調査が容易ということも一因かもしれませんが、地域の宝として大切に保護されてきたことがうかがえます。

巨樹・巨木林は、その中に身を置くだけで心が休まります。是非みなさんも「巨樹・巨木林データベース」から身近な巨樹・巨木林を探して、訪れてみては如何でしょうか。



写真 蒲生の大クス\_滝口貴美子氏撮影

巨樹・巨木林データベース URL: <https://kyoju.biodic.go.jp>



表: 全国最大級の巨木(上位10傑) 2001(平成13)年3月

| 順位 | 都道府県 | 樹種    | 所在地            | 幹周(cm) | 保護制度       |
|----|------|-------|----------------|--------|------------|
| 1  | 鹿児島県 | クスノキ  | 始良市蒲生町 八幡神社    | 2,422  | 特別天然記念物(国) |
| 2  | 静岡県  | クスノキ  | 熱海市 来宮神社       | 2,390  | 天然記念物(国)   |
| 3  | 沖縄県  | ガジュマル | 島尻郡八重瀬町(旧東風平町) | 2,350  | 天然記念物(町)   |
| 4  | 青森県  | イチョウ  | 西津軽郡深浦町北金ヶ沢    | 2,200  | 天然記念物(国)   |
| 5  | 佐賀県  | クスノキ  | 武雄市 川古の大楠公園    | 2,100  | 天然記念物(国)   |
| 5  | 福岡県  | クスノキ  | 築上郡築上町 本庄の大楠   | 2,100  | 天然記念物(国)   |
| 7  | 佐賀県  | クスノキ  | 武雄市武雄町 武雄神社    | 2,000  | 天然記念物(市)   |
| 7  | 山形県  | カツラ   | 最上郡最上町         | 2,000  |            |
| 7  | 福岡県  | クスノキ  | 糟屋郡宇美町 宇美八幡宮   | 2,000  | 天然記念物(国)   |
| 10 | 沖縄県  | ガジュマル | 島尻郡八重瀬町(旧東風平町) | 1,990  | 天然記念物(町)   |

出典: 環境省生物多様性センター 第6回自然環境保全基礎調査「巨樹・巨木林フォローアップ調査報告書」

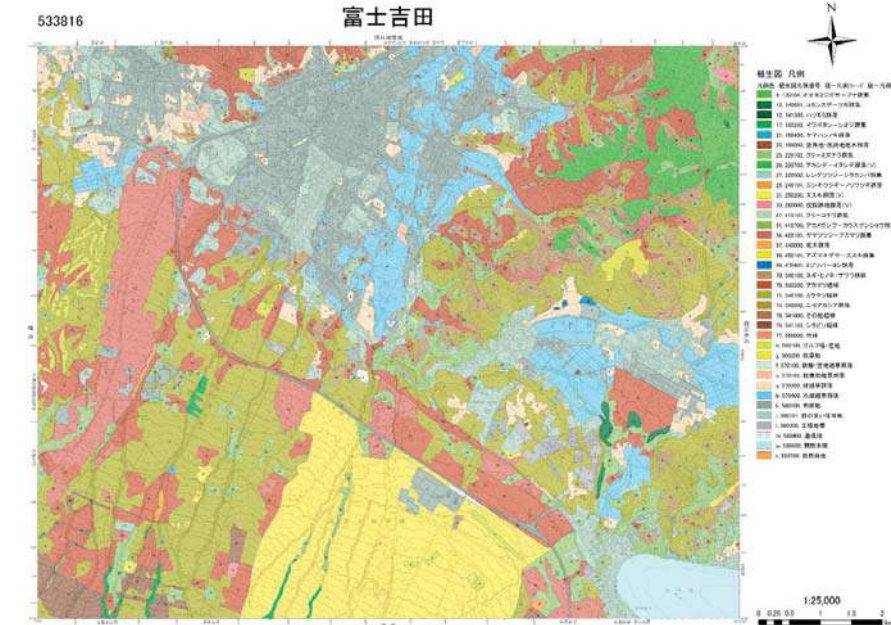


図: 環境省生物多様性センターが所在する富士吉田の植生図

\*各色分けは、例えば「ヤマツツジ-アカマツ群集」や「カラマツ植林」といった植生区分を示す。  
出典: 1/25000植生図「富士吉田」GIS データ(環境省生物多様性センター)



日本列島植木植物園

ナショナルプラント コレクション\*

高津進一 高敬植木園(愛知県) ☎0556-54-5353

## ユッカ・カルネロサーナ

別名: ジャイアント ユッカ  
分類: キジカクシ科イトラン(ユッカ)属  
学名: *Yucca carnerosana*

ユッカ・カルネロサーナはユッカ属の1種で、樹高は通常3m程度ですが6mに達することもあります。幹は巨大で直径30cmにもなり、存在感があります。

葉は大きく、葉縁には太い糸状の繊維(フィラメント)がつき、独特の姿となります。

自生はテキサス州西部のトランスペコスにあるブリュースター郡のみで見られ、標高900~1500mの石灰岩地帯に生育しています。

寒さや暑さにはすこぶる強く、最近ではロックガーデンなどで人気がありますが、生長が遅いので流通しているもののほとんどは、輸入の個体です。



\*ナショナルプラント コレクションとは、世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

## お知らせ

### 令和4年度新樹種・コンテナ部会 合同研修会【部会員限定】

新樹種部会・コンテナ部会は、今秋、北海道十勝・帯広地区の圃場を巡り、各社園が得意とする緑化樹・新樹種・山林苗・GCPの栽培・生産技術を学び、社園経営に活かす研修会を開催いたします。

また、研修会は会員同士の交流、情報交換の場になりますので、是非部会員の皆様のご参加をお願いします。

- 日時: 令和4年10月14日(金)~15日(土)
- 研修先: (有)大坂林業、(有)十勝大森牧場、真鍋庭園苗畑、(有)晴耕園苗畑
- 宿泊先: JR 帯広駅前のビジネスホテル(各自手配)
- 移動手段: 観光バスなど

- 参加費: 12,000円(現地移動費、昼食代等含む)
- 開催判断: 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、9月上旬に判断します。

## 会員動向

### 代表者変更

- ▷(新) 長島淳一郎 (有)安行盛農園(埼玉県)  
▷(新) 足立 賢則 (有)足立農園(島根県)

### 退会

- ▷(有)カクタグリーン(千葉県)

## 計 報

- ▷山崎哲生 様 (山崎敬明氏のご尊父様)  
(有)山崎瑞松園(福岡県)  
令和4年7月22日没 享年85歳  
▷郡山幸雄 様 (郡山隆幸氏のご尊父様)  
(有)郡山緑樹園(鹿児島県)  
令和4年7月没 享年74歳